

「日々の理科」(第 1516 号) 2018 (H30), -9, -2

「鉄平石との出会い (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

林間学校の朝・・・夕暮れの高原と並んで、山が美しい一瞬を見せる時間だ。朝食前の 30 分間、自由時間をとって、私は子どもたちと朝の高原を歩いた。



「自然は人の思い通りには振舞わない。しかし決して関わる人の期待をうらぎることもない」 ---スウェーデンの科学者、ミカエル・オルソンの言葉だ。私はこの朝、この言葉をいくつものことで実感した。

一つ目は「雲海」が見えたことだ。雲海は、谷間や盆地に広がった低い雲（主として層雲や層積雲）が、高原や山脈上から見える現象だ。雲海は足下に見える。「雲は高い空にある」という子どもたちの常識が打ち破られ、驚きの声をあげる一瞬だ。



二つ目は「山びこ」自分の声が、山に反響して、時間を置いてもどってくる不思議さ。ほとんどの子どもは初めて体験したようで、何度もためしていた。



三つ目がこの道に落ちていた岩石だ。妙に平らな石がたくさん落ちている。人工石だろうか？



拾い上げてみてびっくり！何とこれは「鉄平石（てっぺいせき）」であった。鉄平石は「輝石安山岩」の一種で、特に板状節理（ばんじょうせつり）の性質を強く持つために、一定の厚さで平らに割れる岩石だ。日本でもこのあたりにしか産出せず、ある意味で黒曜石よりも珍しい。私は子どもたちを集めて、この岩石の成因・性質や、その貴重さを説明した。



朝ののんびりとした散策タイムが一転、鉄平石拾い大会になってしまった。小さくても「平らなことがわかる」標本を探すように指導した。